



割烹

石井泰次郎

蓮根飛龜頭

(原料)蓮根八寸(目方六十二匁)但しすりかろしたる分量なり)米利堅粉二十匁、木耳、胡蘿蔔、銀杏實、(いも)さつまいも、芋小一本、砂糖、醬油、水、

○胡蘿蔔をせんに切に切りて、水にてさらし、湯煮しかくべし、切形はあられに切りてもよし。

○銀杏の實は皮をとり、焙烙にていりてこげめつくほどにして、甘皮をひきとりて湯煮し、小口切にすべし。

○さつまいもは霰形に切るべし、湯煮すること、強火にて二分間にてよし。

右の品々湯煮して、○木耳は八分間にして切りてのちに砂糖、醬油、水にて煮ること二三分間にてよし。

し○胡蘿蔔は十五分間湯煮して箆にあげかさたるを木耳を煮たる汁の残りにて煮るべし、時間は四分間、○銀杏は三分間煮るべし。

但し炭火の強弱によりて少しのたがひあるべし蓮根はまづ皮をひきて鍋に入れて五分間湯煮すべし、(但し鐵鍋をいひべし)

湯煮する時、酢三勺ほど入るべし、さて五分間にて取あげてかろし金にてすりかろすべし。

蓮根かろしたる量に合てメリケン粉を入るべし。次に下煮しかさたる品々ませ合せすべし。

右のませ合せたるを丸くして、ひらくおして別にメリケン粉を水にてときたる中に入るべし鐵鍋(フライ鍋)にても平さ鐵鍋にてもよし)にて油は胡

麻の油にてあぐべし、まづ油入れたる鍋を炭火の上にかへ、煮たちたるを見て丸くとりたる粉の中

よりはさみ出してそつと入るべし、三つ四つも一度に入れてよし、先のより打かへし打かへしあぐ

べし。

さてあがりたるを皿にあぐべし、皿の上には金のみをおきて其上に洋紙をしきて其上へとあげおきて油を切るべし。

油を切りたるを別の鍋にかつを煎汁と醬油を合せて分量はかつを煎汁五勺、醬油四勺、この割合にて合せたる汁にて煮るべし。

又椀に用ふる時には上煮せずしてあげたるままを鍋に湯を煮立てたる中へ入れて直に取出して椀に盛りてせりを取合せて上よりつゆをはりて出すべし、吸口には柚子を用ゆべし、

蒸し慈姑

(原料) 慈姑四合、寒晒粉四十匁、鯉煎汁六合、味淋二勺五夕、醬油三勺、鹽一匁、葛粉十匁、水三勺、

慈姑を洗ひて皮をむき、おろし金にてすりおろし寒晒白王粉を樂研にてつぶし、細かさ毛ふるひにてふるひて、

藥研なき時は茶碗の横などにて押しつぶしてもよ

し、すりたるくわると交ぜ合し、深き皿に糊氣少なき美濃紙をしき、其中へ交ぜたるくわぬを入れ、蒸籠に入れて二十分間ひすなり蒸し上りたらば取り出し、皿を除き紙をはがし、切方して椀にもり上より葛あんをかけるなり。

○葛あんのこしらへ方は煎汁を鍋に入れ、みりん、醬油、鹽を加へて普通の椀の汁より少しからめに作り、葛粉を水にてとき、其中へ引き入れてどろりとしたる位のかけ汁になすなり。

石焼豆腐

焼豆腐三つに、煎汁こんぶ(四寸巾にて六寸位のもの)一枚、水五合、醬油二勺五夕の割合にて焼豆腐を一つを三つに切り、鍋に昆布をしきて水を入れたる中に入れて十分間はかり煮て次に醬油を加へて三十分間煮てこれを椀にもり汁のつきたるをし

たみ去りて、かつを煎汁と鍋に六合入れて炭味にかけ煮たて、醬油二勺六夕、鹽二匁を加へて味をこゝろみての

ち醬油しょうゆ一勺ひとすくを加へてよし。  
 燒豆腐やきとうふを盛りたる上うへより右みぎの汁じゆをつぎ入るゝなり  
 生姜しょうがのおろしたるを豆腐とうふの中なかはとに少しすこかきまて蓋ふた  
 をしてつかふべし。

女の聞きたいこと

私は婦人雜誌には永い間筆を執つて居りまして衛生上の顧問になつて居りますが婦人が最も善く聞合しに来る事は殆んど定まつたやうに腰より下の事斗りであるこれは學校でも聞く事が出来ぬからでもありませんやうが自分の育てる子に付いては頗る注意が届かぬやうである子の爲めに書いた事は中々親が見て呉れない私の處に子供の爲に其衛生を尋ねに来た人は只二人の外はないこれに依つて見ましても自己中心の人が世の中には多いと見へます (糸左近氏の談話)

世界一の女尊男卑國

北米合衆國アリゾナ州の險峻な山地にホビイ村といふがある、これは己に四百年前白人に發見されたもので、其後忘れられて居たが近頃再び發見せられた、これ等原始の状態に在る人民は高山にある七個の村に棲居る、彼等は皆愛郷の念強く、太古の習慣法則を固守する米國土人で、合計二千人、計上する。彼等の間には牢獄も、養育院も警官もないが犯罪といふことも彼等の間には殆んど知らないことである。彼等の村は皆防禦的の設計を嚴重にしてある。その家屋は大抵二階造り、その材料は石で、粘土や漆泥で築き上げて、大概東向きに出来て居る、以前は壁には窓も戸口もなく、唯一の入口は屋根に穿けてある一の穴で、こゝから梯子又け階段に依て、下へ這入るのである、これ昔日ホビイ村の周りに漂泊する蠻民があり、常に彼等を苦めたからこのやうな構造となつた。

ホビイの婦人は實に原始人民の最古標本で、若き婦人は整調せる丈夫なる體格と、中々良い性格を具へて居る。婦人が其家を所有し、又其家を建てる。全體の家族財産は皆婦人に屬し、婦人は一家の主人と目せられる、それ故家督相続は母より承け、繼嗣は女子孫に係ける。然るに一つ奇妙なるは斯くも權利と地位が婦人に與えられてあるに拘はらず、ホビイ婦人の謙讓は驚くべき程である。彼等は實に靜かで物事が内側で何事も男の先に立たぬ、彼等の全生涯は家内の整理と兒女養育に捧げらる、又その結婚は女子が見極めて成立つものである、男子には撰定の權が無い、